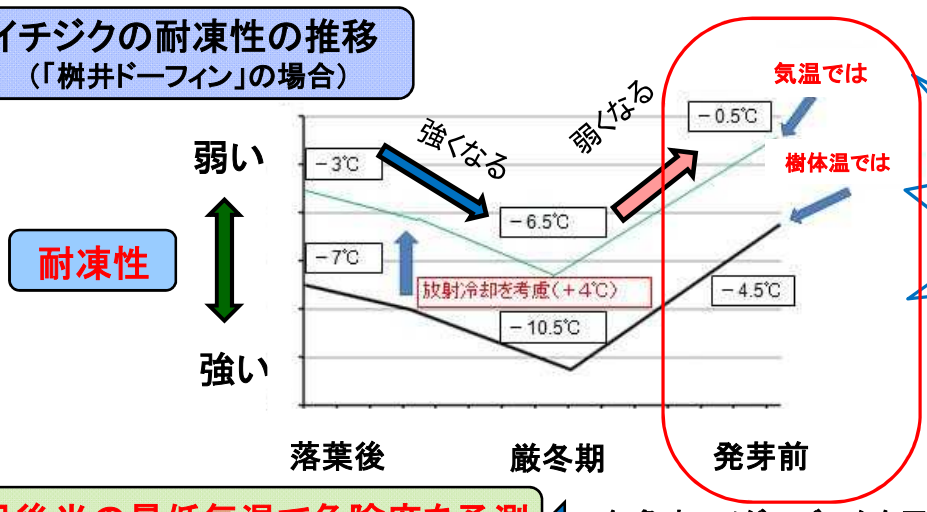
メッシュ気候図によるイチジクの凍害危険度予測

【背景・目的・成果】イチジク「桝井ドーフィン」は凍害に弱いため栽培適地が比較的狭く、産地拡大の障害となっていました。
　そこで、あらかじめ凍害を受ける危険度を予測し、事前にどのような対策が必要であるかを1km間隔で地図上に示すことが可能となりました。

イチジクの耐凍性の推移
（「桝井ドーフィン」の場合）



この時期（3月後半）が最も凍害を受けやすい

3月後半の最低気温で危険度を予測 ← 気象庁アメダスデータを用いて1km間隔で気温を推定

凍害を防ぐための防寒が必要

稲わらによる防寒

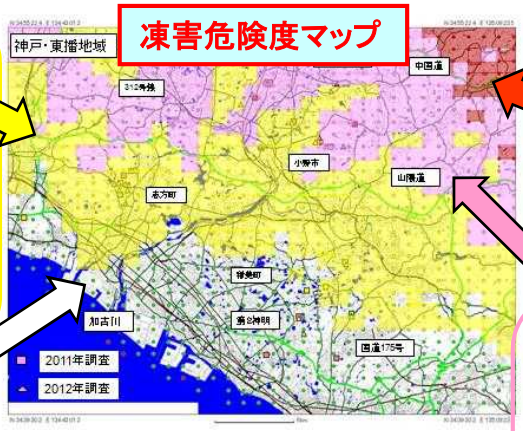
あるいは

アルミ蒸着フィルムによる防寒

稲わらなどの1重の防寒対策

凍害の危険が少ない地域

凍害危険度マップ



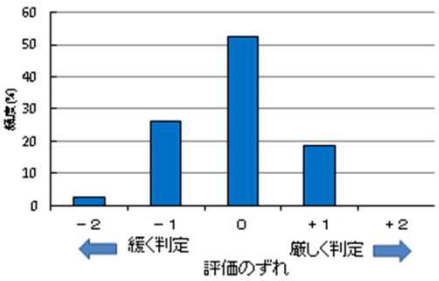
2重の防寒をしても凍害により地上部が枯死の可能性大

1重の防寒では凍害を防ぎきれない場合がある

「稲わら＋アルミ蒸着フィルム」などの2重の防寒対策

予測なのでズレはあります

ぴったりの場合が約50%
前後1段階のズレを含むと約95%の適合率です。



約50%の適合率

【技術の活用】 新植時にどのような防寒対策が必要であるかを、予測のズレはありますが、事前に確認できます。

兵庫県 Hyogo Prefecture

兵庫県立農林水産技術総合センター
農業技術センター